

# JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

## エジプト・アラブ共和国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

## 目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
  - (1) アナカン・郵送等の利用について
  - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
  - (1) パソコンの普及状況
  - (2) 携帯電話の普及状況
4. 現金の持ち込み等について
  - (1) 現金持込にかかる注意
  - (2) 両替状況
  - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について
  - (1) 一般犯罪
  - (2) 政情不安(暴動・デモ)
  - (3) テロ
6. 交通事情について
7. 医療事情について
8. 任国での運転について
9. 住宅について
10. お問い合わせ

### <参考資料>

別添:赴任時の携行品について(隊員への聞き取り結果)

## 1. 赴任時の携行荷物について

- JICA 海外協力隊ハンドブック、共済会新総合ハンドブック、Health & Medical Record 等、訓練所で配布された資料は赴任時に必ず持参してください。
- エジプトでは品質にこだわらなければ殆どの生活用品の購入が可能です。生活に必要な物は出来るだけエジプトで購入することをお勧めします。(別送荷物の送付、引き取りには高額な費用がかかります。(2. 別送荷物 参照))
- 常用している薬がある場合は持参してください。また総合感冒薬、解熱剤、胃腸薬、整腸剤、点眼薬、かゆみ止め軟膏などの家庭用常備薬も必要に応じ持参されることをお勧めします。
- 体温計を持参してください。エジプトでも購入できますが、低めに表示されるなど、正確な体温が計測できないものもあります。
- 特定の物品についてエジプトで購入可能かどうかは、派遣前訓練中の任国事情の時間等にエジプト滞在経験者に問い合わせて下さい。
- カイロ空港到着時には、スーツ、ジャケット、ネクタイ等を着用している必要はありません。但し、翌日からの事務所オリエンテーション(初日)、日本大使館・配属先等への表敬時などにおいては、スーツ・革靴等を着用していただきますので必ず持参してください。
- 赴任時に同時携行する荷物は、カイロ空港到着時、税関で開けられることがあります。スーツケースよりも段ボール箱が開けられやすい傾向にあります。ほとんどの場合は同時携行であれば問題は起きていませんが、新品の電気製品など現場の税関職員が即断できずに留め置かれたりする可能性もありますので注意ください。
- エジプト国内での連絡手段として電話を常時携帯しますが、電話機本体はシムフリー電話を持参し使用、または希望者には本体を貸与します(シムカードは事務所から支給)。

## 2. 別送荷物について

### (1) アナカン・郵送等の利用について

日本からの荷物の別送は、輸送料・関税・荷物引き取り手数料が高額な上、送付できる内容も制限があるため、基本的にお勧めしません。赴任時に必要に応じて航空会社に追加料金を支払い、持ってくるのが最も効率的かつ経済的な方法となります。しかし、どうしても赴任後に別送が必要な場合は、以下をご参照ください。

荷物の送付方法は、アナカン、郵便(EMS、航空便、SAL、船便)等があります。隊員が日本から荷物を送付する場合、郵便局の EMS もしくは SAL を利用する 경우가一般的です。アナカン(航空別送荷物)は、通関業者を通し安全で確実に荷物を送ることができますが、輸送料に加え通関手数料などが高額になるため、あまりお勧めできません。

- 送付から受け取りまでの所要日数は、EMS、SAL 便は 1 ヶ月程度、船便は 3~4 ヶ月程度です。(EMS の場合、日本からエジプトまでは 3 日~1 週間程度で到着しますが、その後の通関手続きなどに時間がかかることが多く、実際には手元に届くまで 3 週間~1 ヶ月ほどかかっています。)
- 荷物の送付には、日本からの送料の他に、荷物を引き取る際にエジプト国内郵便局、税関での荷物引き取り手数料が発生します。
- エジプトでの荷物引き取りには煩雑な手続きが必要となるため、JICA エジプト事務所では、業務・個人向けを問わず、事務所宛の郵便物、荷物の引き取りはすべて業者に依頼しています。郵便局、税関等で発生する手数料に加え業者の手数をあわせた引き取り手数料が後日、荷物の受領者本人に請求されます。

- 高額な手数料がかかることから不要不急な品目については送付を控えていただくとともに、日本や海外の友人知人、本邦所属先や関係機関等に対してもあらかじめその旨連絡をしていただきますようお願いいたします。
- 現地訓練終了後、首都から地方の任地へ赴任する際の移動手段は、車あるいは飛行機となります。いずれの場合も、荷物が多すぎると車両スペースの都合もしくは機内預け荷物の限度の都合で運びきれない可能性があります。赴任に際しての荷物の総量についてはカイロ到着以降の移動も考慮してください。
- 荷物の送付先については下記連絡先をご参照ください。

【手紙、はがき、SAL 利用の場合】

Mr/ Ms. ○○ ○○(ご自身の氏名をローマ字でご記入) C/O JICA Egypt Office P.O. Box 475, Dokki, EGYPT
---

【EMS 利用の場合】

Mr/Ms ○○○○ C/O JICA Egypt Office World Trade Center – 6 th Floor, 1191 Corniche El Nile St., Boulak, Cairo, EGYPT 20-2-2575-8240 (TEL) 20-2-2574-8243 (FAX)
---

- 宛名の記入漏れ等があると、受取人自身で日本の発送機関から現地の発送機関に修正レターを发出してもらう必要が生じます。また、ペナルティとして高額な手数料を請求されることもありますので、記入漏れがないよう、十分にご確認願います。
- 日本から荷物を発送される場合、送付状(控)と送付物リストをご持参下さい。**赴任後半年間は免税対応が可能**ですので、赴任後に上記書類をボランティア調整員にお渡しください。但し、免税手続きに入る(エジプト到着)以前に荷物が現地に到着した場合、免税手続きができません。
- エジプト到着以降、半年以内の間に日本から荷物を発送される場合には、日本から送付状(控)と送付物リストの画像等を取り付けていただき、ボランティア調整員にデータを転送してください。この場合も、免税手続き以前に荷物が現地に到着した場合には、免税手続きはできません。

(2)通関情報について

- 全ての荷物は税関で開封され中身が調べられます。品目によっては高率の関税が課されますのでご留意願います。
- 荷物の受け取りは、みなさんがエジプト到着以降に現地の通関業者に依頼します。通関手数料は重量や内容物、内容物の個数、容積によって変わりますが、目安として 2kg のダンボール一箱で 1,000LE 程です(約 7,000 円、1EGP=約 7 円)。最近では小さな封筒サイズの荷物でも同額の手数料が請求された例もあります。

- プリンタ、大量の使い捨てコンタクトレンズ、洗浄液等は高額な検査手数料を請求される場合があります。特に紙幣の偽造防止の理由からカラープリンタ、カラーコピー機等の機材はチェックが厳しくなっています。
- プリンタは携行、別送に関係なく必ず検査を受けます。検査には仕様書の提出を求められる場合がありますので、すぐに取り出せるようにしておいてください。検査手数料は新品、中古に係わりなく高額となります。現地でもプリンタの購入は可能です(日本から持参した PC でも概ね使用可能)。なお、活動上必要な書類のプリントアウトは隊員連絡所でも可能です。
- 赴任から半年以内にエジプトに到着する生活用品には輸入税がかかりませんが、内容物によっては課税される場合があります。特にタグがついたままの衣服等、新品の同じ品物が多数あると商用としてみなされ、課税される可能性がありますのでご注意ください。
- トラブル例：
  - ✓ 家族から現地で容易に購入できるものが送られてきたが、高額な課税、手数料が請求された。
  - ✓ CD、雑誌が抜き取られていた。
  - ✓ ソース、詰め替えシャンプーが抜き取られていた。
  - ✓ 頑丈な日本製ダンボールが破損し、中身が破損していた。

### 3. 通信状況について

#### (1) パソコンの普及状況(現地で購入可能なPCの機種・価格、プロバイダ、E-mailの利用状況)

- Lenovo や Dell、ASUS、HP 等の PC やエジプトでも購入可能ですが、OS を始めとした日本語版のソフトは日本から持参するのが無難です(Windows OS、Office など主要ソフトウェアの英語版であれば任国の方が安価に購入できる場合もあります)。ノートパソコンで\$800 ぐらいから購入できますが、周辺機器の品揃えは日本ほど良くはなく、価格も基本的に日本より高額です。
- インターネットや USB などを経由したウィルス被害が頻発しているため、赴任前に対策ソフトをインストールすることを推奨します。コンピュータの埃などによる故障や物理的な故障も少なくありませんので、リカバリ用のメディア(CD、DVD、バックアップ、Office など)を忘れずにご持参下さい。
- インターネットは USB モデム、ポケット Wifi を利用した通信が可能です。固定電話回線の必要もなく、契約日に利用開始できるため便利です。月毎のプリペイド契約で、費用はダウンロード容量により設定されており 90~250 ポンド程度(90 EGP、3.5 GB 程)です。契約時にはモデムの購入費(700 LE 程度)が別途必要です。Etisalat、Vodafone、Orange など複数のプロバイダが同サービスを提供しています。ダウンロード速度は 7.2Mbps が主流ですが、実測値は時間帯や場所により、ほとんどの場合は理論値の数分の一以下の速度しか期待できません。
- 固定電話回線がある自宅でインターネットを利用する場合は ADSL 契約の方が安価で、回線速度もある程度安定しています。(例:30Mbps、250GB のプランで 210EGP/月)
- Email の送受信速度等は、回線速度やデータ容量に依拠するため一概に言えません。

#### (2) 固定電話、携帯電話の普及状況

- 固定電話、携帯電話は、隊員の派遣されている地域においては、いずれも問題なく利用可能となっています。
- 安全管理のために、隊員を含む JICA 関係者には携帯電話を貸与しています。

## 4. 現金の持ち込み等について

### (1) 現金持込にかかる注意

- 入国時に US\$10,000 以上を持ち込む場合は申告が必要になります。現金を含む貴重品の管理には十分に気をつけてください。

### (2) 両替状況

- 国内主要都市の銀行および両替店では、米ドル、ユーロ等からエジプトポンドへの両替が可能です。現地では、トラベラーズチェックの利用はできません。

### (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

- 赴任後に現地生活費(3ヵ月分)を現金で事務所から支給しますが、銀行口座開設時の保証金 US\$1,000 と住居契約時の支払い金(家賃 3 か月分+敷金 1 か月分程度)US\$2000 前後が必要になります。なので US\$3,000 程度の現金を持参されることをお勧めします。
- なお、住居契約時の敷金は各隊員の自己負担です。デポジットは退去の際に返金されるものではありますが、使用状況により修理補修が発生する場合もあるため、返金額は異なります。

※外国人が利用するホテル、レストラン、商店、免税店ではクレジットカード(VISA、MASTER が主流)が使用できますが、その使用にあたっては細心の注意(金額と通貨の確認、余分にカードコピーが取られていないかの確認)が必要です。

## 5. 治安状況について

※JICA の安全対策については、JICA 海外協力隊ハンドブックを参照

### (1) 一般犯罪

エジプトはこれまで途上国の中では治安が良い国とされてきましたが、2011 年 1 月 25 日以降の動乱時には警察官が一時的に街から姿を消し、主要都市では商店を対象とした略奪が発生、市民は武器を入手しエリアごとに自衛団を結成しました。2013 年 7 月のクーデター以降は治安機関の統制能力も回復しつつあると言われているものの依然注意が必要です。邦人の主な被害は下記のとおりです。

空港、ホテルのロビー、レストラン等不特定多数の者が出入りする場所の他、長距離バスや鉄道で移動中に被害に遭う事例も報告されています。バッグなどは常に自分の目の届くところに置く、もしくは肌に触れるところに置くようにしてください。他の日本人関係者が同席しているからと安心せず、席を立つ場合には貴重品は必ず携行してください。

【事例】エジプトでの出張を終え、カイロ国際空港でチェックイン後、搭乗ゲード付近で搭乗待ち中、最寄りに置いてあったパソコンを盗まれた

【事例】知り合ったエジプト人と一緒にレストランに入店し、雑談中、携帯電話を操作していたところ、相手に見せて欲しいと言われ渡した。席を離れトイレに行っている間に、相手は携帯電話

を持ち逃げした(カイロ)。

## ②スリ・ひったくり:

### 1) スリ

スリは公共バスや乗り合いミニバスの中や人ごみなど、混雑時に多発しています。

【事例】バスの中で現金とクレジットカード 2 枚入りの財布を盗まれた(カイロ)。

【事例】非常に混雑している中で友人と二人で歩いていたところ、後ろから近づいて来た女 3 人組に、背負っていたリュックサックから携帯電話等を盗まれた(カイロ)。

また、人の注意を引いて携帯品に対する注意力を散漫にさせた隙に、財布や貴重品を盗み取る手口が少なくありません。

【事例】スマートフォンの地図を確認しながら歩いていたところ、タクシーが止まり降りてきた男から国籍を聞かれ、日本と答えると、空手や柔道の話をしながらかけるように体を近づけてきたので振り払ったところ、男はタクシーに戻り立ち去った。事後、右ポケットに入れていたスマートフォンが無くなっていた(カイロ)。

【事例】国内旅行で昼食後財布から現金を取り出し支払いを済ませた後、その最寄りの土産屋で買い物をしようとしたところ財布がないのに気づいた。当時、土産屋は多くの団体客等がいた(カイロ外)。

### 2) ひったくり

人通りの少ない場所を一人で歩いている時に多く発生しています。

【事例】(未遂)通勤途中、後ろから来た車の助手席の男が身を乗り出して、たすき掛けのバックをひたたくろうとしたが、バックの取っ手がちぎれたため盗まれずにすんだものの、取っ手がちぎれた勢いで道路に顔を打ち付け前歯を損傷する大けがを負った(カイロ)。

【事例】路上を歩いていたところ、バイクに乗った男にバック(携帯電話 2 台、現金 400 エジプトポンド、クレジットカード入り)をひたたくられた(カイロ)。

## ③詐欺、恐喝、ぼったくり

エジプトでは様々な人々があらゆる手段、理由で親切そうに日本人に接近してきます。「グッド・ブライス」、「スペシャル・フォー・ユー」、「フレンド」、等々。初対面の相手を信じて前払いで現金を渡す等の行為は、トラブルの原因となりかねません。

【事例】歩行中、町を案内すると声をかけてきたエジプト人と、路地裏でタバコを吸いながら飲酒していたところ、警察官を名乗る者が現れ、一方的に、「マリファナは違法である。所持品を全て没収する」と言われ、200米ドルを取り上げられた(カイロ。⑦薬物犯罪も参照)。

上記事例の他にも、エジプト人が複数で突然住居を訪問し、政府印らしき印章が押されたアラビア語の書類又は身分証を提示する等関係当局からの派遣であるかのように誤信させ、室内に入り込んだうえ、配水管の清掃や消毒作業を行い、作業後、高額な金銭を要求する、いわゆる「訪問詐欺」も報告されています。

薬物事件等の捜査を装って職務質問や所持品検査を行い、所持品からパスポート、現金、携帯電話を騙し取る事件も報告されています。周囲の人々を味方に付けて相手の身分を確認する等、犯人のペースにはまらないようにしてください。

#### ④強盗

睡眠薬強盗:

【事例】話しかけられたエジプト人とお茶を飲んでいるうちに意識が朦朧とし、気がつくと傷だらけになっており、さらに財布(現金約13万円、カード2枚)が無くなっているのに気づいた(カイロ)。

車両強盗:

【事例】2011年のアラブの春以降、治安が悪化した時期に、夜間走行中の車のフロントガラスに卵やトマトを投げつけ、運転手が車を止め外に出たところを数人の若者に襲われ、車が強奪される事件が起きています。

#### ⑤侵入盗・屋内強盗

件数は少ないものの、侵入盗も発生しています。使用人や門番、ドライバー等身近な人に対する注意も怠らないください。身辺で起きる盗難事件の多くは、「身内」の犯行、またはその手引であったという事例もあります。過去に逮捕された屋内強盗の犯人は取り調べで、「日本人を選び、下見して犯行に及んだ」と供述しています。住居選定の際は、防犯設備も確認してください。JICA事務所は、入居前・入居後の安全対策アドバイザーによる安全対策相談・助言を行っています。詳しくはJICA事務所担当者に問い合わせてください。

【事例】金庫あらし:ホテルに滞在中、セーフティ・ボックスに現金を入れ、数日後に確認したところ現金がなくなっていた。本人は鍵を閉めたか否か記憶が曖昧(カイロ)。

【事例】空き巣被害:自宅内から現金と貴金属が盗まれていた(カイロ)。

#### ⑥性犯罪:

「カイロは女性が夜独り歩きできる街」という誤った認識は大変危険です。他のアラブ諸国と比べると比較的開放的で安全であると錯覚しがちですが、十分な注意が必要です。2011年2月の動



乱以降性犯罪被害・女性を狙った誘拐事件が、2014年4月にはミニバス内で邦人女性に対する暴行未遂被害が発生しています。

#### ⑦薬物犯罪:

薬物の密輸に関してエジプト当局は死刑を含む厳しい姿勢で臨んでいます。また、私服警察官による取締りも頻繁に行われていますので、開放感から安易に薬物に手を出すと重罪を課されることを含め取り返しのつかない事態となります。また出入国の際、安易に他人から荷物を預かった結果、荷物から薬物が発見され、「運び屋」として検挙されることもあります。また、当地で購入した薬やお茶等を日本に持ち込もうとして、思いもよらず、日本では禁止成分が含まれていた等の事態も注意願います。

### (2)政情不安(暴動・デモ)

2011年2月のムバーラク元大統領の退陣前後のデモは、エジプトでは空前の規模となり、ムバーラク大統領退陣や民主化要求を掲げて全国的な広がりをもってエジプト全土で発生し、ムバーラク元大統領を退陣に追い込みました。2012年6月のムルシー前大統領による政権発足後も、議会選挙等の政治イベントの前後や、世論の注目を集める判決が出る際など、エジプト全土を巻き込んだ衝突が発生、多数の死傷者を出しました。さらに2013年7月のクーデター(ムルシー大統領追放)以後、ムルシー支持派/ムスリム同胞団(MB)系らと暫定政権支持派の間で大規模な衝突が頻発したほか、デモ隊の強制排除などの結果、エジプト全土で1,000名を超える死傷者が出ています(国家人権会議によれば、2013年8月14日前後の強制退去での死者数は632名、負傷者1,492名)。

2014年6月に現大統領が就任して政権を担い、2017年4月以降非常事態宣言を発令して治安部隊を要所に配置し、無許可の集会デモ等が発生しにくい状況にあり、それらの件数は減少していますが、今後も選挙やMB幹部の裁判、国民に痛みを伴う経済諸改革の発表と実行時、各種記念日等には注意が必要です。

セキュリティー・アラートが出ている場所やデモがアナウンスされている場所はいうまでもなく、軍・警察の関連施設、宗教施設(大きなモスクや教会)、裁判所、多くの人が集まる場所(タハリール広場、駅、バスターミナル、スタジアム等)、大学などにはできるだけ近寄らないでください。外国人が標的とされる可能性は高くはないものの、抗議行動、それに伴う暴力事件、治安部隊の鎮圧作戦が突然発生し、偶発的に被害を被る虞があるからです。

国の威信をかけたサッカーの試合は暴動に発展する可能性もあるため、それらに巻き込まれ死傷するリスクがあります。当地では2012年2月に、試合中に暴動が発生し74人以上が死亡、500人以上が負傷する事件が発生しています。また、国vs国の国際試合がテロ等に狙われることは少なくありません。

### (3)テロ

1992年頃から、アシュート県を中心にエジプト全土で、イスラーム主義過激派集団が、政府転覆を目的とし、政府高官・警察官を狙い、また、エジプト経済を支える1つの柱である観光産業にダメージを

与えるために、外国人観光客向けの寝台列車・観光バス・船、観光地を標的とするテロを敢行しました。

2013年7月のクーデター以降、暫定政権の治安当局は、シナイ半島だけでなく、国内主要都市のイスラーム過激派グループの掃討作戦を行ったものの、イスラーム過激派組織によるテロが再び活発化し、イスラーム過激派組織「IS シナイ州(旧アンサール・バイト・アル＝マクデイス(ABM))」が外国人を標的とするテロを企図していることを表明したほか、2015年10月、シャルムエルシェイク空港を飛び立ったロシア機の墜落(テロの可能性が高い)等が発生しました。

その後、治安当局は、ABMなどのイスラーム過激派組織のアジトの搜索や主要メンバーの逮捕など一連の対策を強化し、治安情勢は改善傾向にありましたが、2016年12月以降(次頁参照)、主に治安部隊やキリスト教徒等を狙ったテロ(未遂も含め)が散発しました。特に2017年、10月20日に西方砂漠で治安部隊が襲撃され多数が殺害されたほか、11月24日にシナイ半島北部ビール・エルアブド市でスーフィーのモスクが襲撃され305人が死亡しました。これを受けエジプト政府は、2018年2月9日からエジプト全土で、過激派掃討作戦「Sinai 2018」を開始し、過激派の撲滅に努めています。

さらに、貧富の格差の拡大、若年層を中心とした高い失業率や物価の高騰のため、大学生など若年層の間では、政治に対する失望感・無力感は依然として高いとみられ、過激主義が浸透しやすい環境となっていることから、今後も同種のテロ事件が発生する可能性は否定できません。欧米観光客が戻り始めており、1990年代、2000年代と同様な観光地や観光客(ソフトターゲット)を標的とするテロが連続して画策される可能性も懸念されています。2018年12月28日と2019年5月19日に、ギザのピラミッド周辺の高速道路出入口付近に仕掛けられた爆弾が爆発し、その直近を走行中の観光バスに乗車していた外国人観光客らが被害に遭う事件が発生しています。

#### 2019年の主なテロ事件

- |       |  |
|-------|--|
| 1月5日  | カイロ県Nasr Cityにある教会の最寄りで、爆発物処理をしていた警察官1名が死傷、少なくとも2名が負傷                            |
| 2月5日  | 過激派がニュー・バレー県ハルガのBagdad Wahat検問所を襲撃、その後現場から逃走。警官少なくとも4人負傷。過激派組織・イスラム国(IS)が犯行声明発出。 |
| 2月15日 | ギザ・スクエア最寄りの高架下で簡易爆弾が発見され、治安部隊が車両と人の進入を規制し爆発物処理を開始したが、処理中に爆弾が爆発し治安要員および一般市民が負傷。   |

ギザのピラミッドの南西方にある住宅地、Pyramids Gardens内の貴金属店「Al-Tawil」に銃で武装した4人組が押し入り、抵抗した店主に銃で発砲して貴金属を奪い逃走。

- 2月18日 カイロ市内Al Gamaliya地区で、2月15日にギサ・スクエア最寄りの高架下に爆発物を仕掛けたとの容疑を持たれていた男が、同地区の自宅に帰ってきたところ警官に職務質問されそうになり自爆、その警官2名が死亡。
- 2月27日 カイロ、ラムセス駅(終着駅)のコンクリート製ホームに無人の機関車が暴走して突っ込み火災が発生。20人以上が死亡。
- 3月7日 治安部隊が爆弾を仕掛ける目的で、車両で移動していたムスリム同胞団と関連のある過激派7人を発見し、そのうち3人を射殺。
- 4月7日 カイロ国際空港の北方に位置するAl Nozha地区で、警察官に向け何者かが銃を乱射。少なくとも警察官1名死亡。
- 5月19日 ギザの大エジプト博物館建設サイト外周の路上で簡易爆弾が爆発し、直近を走行中の観光バスが被害に遭い、外国人観光客らが負傷。

## 6. 交通事情について

エジプトで注意を要するのは交通事故です。エジプトにおける皆さんの安全に関して最も身近な脅威とも言えます。統計局によれば、2017年の交通事故による死者数は3,747人、負傷者数13,998人で、その78.9%が人為的な原因です(スピードの出し過ぎ、無理な割り込みと車線変更、歩行者の無理な横断)。特に高速道路で走行中は、大きな事故となる可能性があります。2016年2月にはアスワンからアブシンベル神殿間の道路で邦人観光客の乗る車両の事故が発生し、1名の死者を出しました。同様な事故が同年12月にも発生しています。

エジプトの交通秩序は日本と大きく異なります。道路横断中にはねられた邦人女性の「横断歩道を渡っていたのに」という言葉に象徴されるように、交通に関する遵法意識が日本人とは根本的に違うということをよく認識する必要があります。

万が一、交通事故の被害者になってしまった場合、相手が任意保険に加入している可能性は皆無とご想像ください。軽傷の人身事故はおろか、死亡事故の被害者に対しても一銭も支払われなかったという例があります。エジプトでの滞在に少し慣れたからといって、車の流れの中を泳ぐように横断するのは、相当の危険をはらんでいるということを承知しておいてください。交通事故の被害者となった場合、事故現場で

言い争っているうちに逃げられてしまったという事例が多くあります。野次馬が取り巻いているうちに当事者が逃げってしまうということもあります。特に相手に車をぶつけられた時は、すぐに車のナンバー、ドライバーの氏名、電話番号、勤務先等を記録しておきましょう。

また、交通事故の加害者になってしまった場合、まず最優先すべきは負傷者の救助です。相手が負傷していた場合、救急車を呼ぶ、応急処置をする等の対応を行う必要があります。負傷者がいる場合はその保護が当事者の義務ですが、状況によっては自分自身を守らなければならないことがあります。現場で多くの野次馬に囲まれて袋叩きにあたり、地方で子供をひいてしまった外国人が現地の人々に復讐され重傷を負った例等があります。このような場合は、安全対策アドバイザー（JICA 事務所担当者経由）若しくはC/P等近くの信頼できる人に連絡して事故発生の実情（時刻、場所、怪我や損傷の程度）を速報し、支援を求めましょう。アラビア語が十分話せないのに、現場で一人だけで対応しようとして良い結果がでた例はあまりありません。また、身の危険を感じた場合、一旦現場を離れて、迅速に最寄りの警察署に駆け込んで事故を届け出るのも安全な方法の1つです。

警察への届出は、面倒でも必ず行う必要があります。現場で口約束をして別れ、後日、修理代が支払われなかったり、嘘の証言で相手の過失を自分の責任にされた例等があります。警察署では英語は通じないと考えた方がよく、必ずアラビア語を話す人に同行してもらった方がいいでしょう。これら事故処理の要領は、ケースバイケースで、決まった最善策があるわけではありませんが、過去の事例として参考にしてください。

## 7. 医療事情について

※エジプト事務所の新型コロナウイルス対応については、別配布された資料を参照

エジプトの医療レベルは概して高く私立総合病院では、心筋梗塞や脳卒中、事故などの救急対応は24時間可能で、カイロやアレキサンドリアでは腎臓や肝臓移植も行われています。紅海沿いのリゾートではダイビングなどのマリンスポーツが盛んですが、その地にある減圧症治療施設が必ずしも機能するとは限りません。

医療機関には、政府系病院、私立病院、個人クリニック、宗教系などがあり、政府系病院の診察料は無料ですが、設備・サービス面で劣り、どの病院もいつも混んでいて待ち時間は非常に長いです。そのため外国人や富裕層は、値段は高めですが私立病院や個人クリニックを利用しています。私立病院でも医師以外の職種では英語を話せる人は少なく、コミュニケーションが難しくなります。また医療分業制をとっており、総合病院以外では、検査や薬はそれぞれ別々の機関で扱っています。

多くの医師は大学病院や公的医療機関に所属し、いくつかの私立医療機関を掛け持ちして勤務していますので、診療時間が突然変更になることもあり、特に専門医を受診する場合は、必ず予約あるいは時間の確認が必要となります。

歯科治療も可能ですが、治療費が高額であることや言葉の問題もあること等から、可能な限り日本で治療を終えてから赴任されることをお勧めします。

ワクチンに関しては、VACSERA と呼ばれる公的機関が輸入から供給、接種を担っています。小児用からB型肝炎、破傷風、髄膜炎など各種のワクチン接種が可能ですが、時に欧米製ワクチンの在庫が無い

こともあります。狂犬病ワクチンは VACSERA や政府系病院に常備されており、総合私立病院にもありません。破傷風ワクチンの常備については医療機関によって異なります。黄熱病ワクチン接種は限られた公的機関が実施し接種証明書を発行します。

眼鏡店も多く眼鏡やコンタクトレンズ、保存液なども入手可能ですが、輸入品のため概して高めです。歯科用品や女性用衛生品も薬局やスーパーで購入可能です。

エジプトは乾燥地帯ということもありマラリアやデング熱はありませんが、ナイル川には住血吸虫がいますので水に触れることは禁忌です。また C 型肝炎の感染率が世界的にも高率で国民病となっています。

冬(11月～3月)の乾燥は機内と同程度と言われており保湿が必要となります。気温は5℃くらいまで下がるのである程度の防寒も必要です。また夏(5月～9月)はカイロでも40℃を超える事もあり、アスワンなど南部では40℃台となりますので、熱中症や脱水予防は重要となります。下痢や嘔吐があると、脱水症になりやすいため、スポーツ飲料よりも経口補液の粉末の方が有用です。エジプトの経口補液粉末パックは200ml用のため日本製が実用的です。冬から春にかけてハムシーンと呼ばれる砂嵐が吹くことがあり、結膜炎や喘息、喉を傷める原因となります。ハムシーンが吹く時は、コンタクトレンズ使用中に角膜を傷付ける事もありえるため眼鏡に替えることを勧めます。

またカイロでは、車の排気ガスなどによる大気汚染も年々ひどくなっています。罹りやすい疾患としては、胃腸炎(下痢、腹痛、発熱等)、呼吸器疾患(風邪、気管支炎)、アレルギー疾患(結膜炎、皮膚炎、蕁麻疹)等です。

## 8. 任国での運転について

当国では交通事故のリスクが高いため、運転を不可としています。

## 9. 住居について

住宅については、配属先から適切な住居が提供されない場合、住居費限度額内に収まる・活動に支障のない物件を JICA 事務所が事前に探します。エジプトでの住居は、集合住宅(アパート)の一室を賃貸する形態が一般的です。入居の際には隊員本人が大家と賃貸契約を結び、JICA 事務所に住居手当の申請を行い、事務所から住居費を支給します。

## 10. お問い合わせ

以下のボランティア班共有アドレス宛にメールでお問い合わせください。

※長期隊員の方は、お問い合わせは派遣前訓練が開始してから行ってください。

※活動に関わる内容以外の質問はお控えください。

**JICA エジプト事務所 ボランティア班共有アドレス:[jicaeg\\_vc@jica.go.jp](mailto:jicaeg_vc@jica.go.jp)**

以上

別添 : 赴任時の携行品について